

重点取組分野	令和 7 年度		総括
	具体的取組	自己評価結果	
生きてはたらく知	①学習のユニバーサル化を意識した学習展開を図るとともに、習熟度別の学習形態を取り入れ、どの子どもにも学びへの意欲や理解の深まりの機会を保障し、学力向上を目指します。 ②「つながりを生かして学びを深める子どもの育成」を研究主題とし、問題に対して、「ひと」の「経験」を生かして子どもが主体的に解決しているように「まなびの環境」を整えます。	今年度も、「つながりを生かして学びを深める子どもの育成」を研究主題として、生活科・理科の取組を年5回公開し、本校の児童の様子を発信し、参加者の方々からの意見や講師の先生方からの指導をもとに、本校の子どもたちのよさを再認識することができた。こうした取組が、子どもたちの資質・能力を育てているかについて、様々な方法でめとり、検証していくことが必要であると考えている。	B
豊かな心	①道徳科と他教科・領域や学校行事との関連を意識して道徳科の学習を充実させ、子ども人権会議、市・区子ども会議・横浜国際平和スピーチコンテスト、人権委員会の児童主体の取組等の活動を通して、多文化共生の心や人権感覚を高めていきます。 ②読書センターの充実を図り、司書教諭や学校司書、ボランティアを活用したり、図書委員会の児童主体の取組を進めたりして、豊かな心を育てる読書活動を推進します。	多文化共生の心や人権感覚を高めていくために、様々な学習との関連を図り、道徳科の学習を充実させたい。そのために、年間計画を見直し、豊かな心をより一層育めるようにしていきたい。 電子図書館「Yomokka!」が導入され、子どもたちの読書機会を充実させることができている。本を読むことが好きな子どもたちがさらに増えるように、活用の仕方について教職員で共有し、組織的に取り組むことができるとしたい。	B
健やかな体	①基本的な生活習慣を定着させるために、家庭と連携するとともに、体育科・特別活動の学習、学校保健委員会や運動・保健・給食委員会の児童主体の取組を活かして「体力向上」に努めます。 ②校内放送や学校ホームページ、お便り(食育だより・保健だより)を通して、健康教育に関する情報発信を逐次行います。	学校の様々な教育活動を通して、健康教育を進めてはきているものの、保護者へのアンケート結果を通して、家庭との連携をもっと密にしていける必要があることが分かった。 今後は、保護者に向けて学校での取組を発信していくことを強化していく。加えて、基本的な生活習慣を定着させるために、学校と家庭の双方でできる取組を考え、協力して進めていけるようにしていきたい。	B
安全管理 地域連携	①避難訓練や地域防災拠点訓練、交通安全教室を通して、「自分の身は自分で守る」意識を高め、安全教育の充実を図ります。 ②教職員に安全管理の研修を継続的にを行い、不審者対応や地震・災害発生時に命を守る行動ができるようにします。	昨年度に引き続き、高学年の児童が地域防災拠点訓練の一部に参加した。当日は、防災意識を高めるために、全学級で防災を考える授業を実施して保護者に公開した。 今年度も、教職員の安全管理に関する研修を継続的に行ってきた。次年度以降も、必要な研修を年間を通して設定し、安全に対する意識をもてるようにしていきたい。	A
いじめへの対応	①全職員が子どもの気持ちに寄り添うことができるよう、アンテナを高くして、いじめの未然防止・早期発見・積極的認知を行います。 ②月1回、いじめ防止対策委員会を実施し、認知された案件の経過確認を怠らないで行うことで再発防止に努めます。児童アンケートや横浜Sturdy Naviの取組等により些細な変化を見逃さない体制づくりをします。	日々の情報交換をはじめ、毎月いじめ防止対策委員会と、児童の様子を教職員間で共有できている。教職員がアンテナを高くして、子どもたちを見守っているために、いじめの早期発見ができていると考えている。今後は、子どもたちの些細な変化を見逃さないように、アンケートの実施や横浜Sturdy Naviの取組等を活用し、複数の教職員で子どもたちを見守っていく体制をつくってほしい。	A
人材育成 組織運営	①組織・校務分掌のつながりを明確にし、PDCAサイクルを実践しながら人材を育成するとともに、教職員間の情報交換や意見交換が活発に行われるようにします。 ②子どもと向き合う時間の確保を目指して、業務アシスタントの活用や業者への委託を進め、業務の効率化を図ります。	教職員間の情報交換や意見交換の場を設け、一人ひとりの教職員が広い視野で学校運営を捉えることができるようにした。 今年度も、必要な会議を精選したり、検討事項を焦点化したりして、子どもと向き合う時間の確保を目指してきた。今後は、必要な会議や研修の場を確保するとともに、業務の効率化や負担軽減に努めていけるようにしたい。	B
アクティブセンター 構想	①特別教室の施設をなくし、フリーアクセスとし、アクティブな学びが帯びてできるようになった校内環境を、子どもとともに積極的に活用します。 ②校舎の必要な場所に配置した図書館の書籍の更なる充実と、校内にあるICT機器の積極的な活用を図り、子どもがいつでも情報収集・発信できるようにします。	特別教室の施設をなくし、フリーアクセスとした校内環境が子どもたちにも定着してきている。それぞれの教室の特徴を生かした学びがさらに展開されるように、各教室の活用方法を教職員で共有し、組織的に活用できるようにしたい。 書籍の更なる充実と、ICTの積極的な活用を図るために、各教科・領域等の学習の中で、どのような機会でも活用できるかを年間指導計画を立てて検討していきたい。	B
特別支援教育	①校内特別支援委員会を活性化させ、個別支援学級と一般学級の連携を深め、特別な支援を要する児童への支援の在り方の理解を深めます。 ②関係機関と協力して支援の方法を工夫し、家庭と連携しながら実践していきます。	特別な支援を要する子どもたちが、安心して学校に通うことができるための支援についての理解を深めるためには、校内特別支援委員会の役割が大切であり、家庭との連携を進めることが大切であるということが改めて分かった。 また、特別支援教室の開設に向けて検討を進め、次年度から実施する準備を整えることができた。	B
児童支援	①「いいのちを大切にすること」どこでもいつでも「が」が外部機関と連携する「ゆたたく寄り添うのいいとが」の児童支援」を全職員で共有し、子どもを支援していきます。 ②児童支援専任を中心に情報共有し、未然防止と組織的対応に努め、対処療法ではなく、課題を根元から絶つように努めます。	児童支援専任を中心に情報共有し、未然防止と組織的対応に努めてきた。学年内で起きたことについては、学年主任を中心として、組織的な対応ができた。 今後は、子どもたち自身に困ったことがあったときに相談できる環境を学校全体でどのようにつくっていくかを検討していく必要がある。まずは、誰に相談してもよいことをくり返し伝え、子どもたちが安心して学校に通うことができるようにしていきたい。	B
地域学校協働活動	①南中ブロックで3校合同の学校運営協議会を開き、9年間を見通した子どもの育成を地域とともに考えていきます。 ②学校地域学校協働本部、スクールゾーン対策協議会等を活用し、情報交換を密にして、地域との意思疎通を図り、開かれた学校創りを推進します。	今年度は、幹事校が南中学校であったため、中学生の学習の様子を参観する機会があった。特に、6月に実施した授業研究会では、中学での学びの様子が分かり、9年間で目指す姿を確認することができた。 スクールゾーン対策協議会をもとに、安全面の観点から、通学路の見直しの一部が行われることとなった。今後は、情報交換を密にして、地域との意思疎通を図り、開かれた学校創りを推進していけるようにしたい。	A
ブロック内 評価後の 気付き	今年度は、南中学校が幹事校として、小中連携を図った。6月の中学校の授業参観では、卒業した子どもたちの学んでいる様子や参観し、小学校で何を大事にして、中学校へつなげていくかについて、考えることができた。10月の部活動体験では、6年生の子どもたちが、中学校へのイメージをもつことができた。9年間で育てる意識の大切さを改めて感じることができた。1年間であった。今後は、3校の交流を通して、本校が目ざす子どもの姿をさらに具体化していきたい。		
学校関係者 評価	中期学校経営方針をふまえて、児童と保護者の双方にアンケート(学校評価)をお願いした。その結果を見ると、保護者と児童の評価にずれがある項目があった。そのずれを分析するとよいという助言をいただいた。保護者が学校の取組を理解してもらえるように、情報発信をしたり、参観・懇談したりするなど、知恵をふりしぼってほしい。また、体験を大切にしたい学習や自分たちで活動を創りあげる経験を積み重ねて、学びを進められるとよいという助言もいただいた。		
中期取組 目標 振り返り	今年度は、令和4年度から令和6年度の取組をふまえて、さらによりよい学校づくりを目指すために、具体的取組を改めた。南中学校ブロック「9年間で育てる子ども像」である「自主性」「自己肯定感」「コミュニケーション力」の中でも、特に「自主性」に焦点をあてて、子ども主体の取組を進めることを、具体的取組に位置づけた。今後の課題は、「自主性」について、教職員全員が共通認識をもち、より組織的・計画的に取り組んでいくことだと考えている。		

重点取組分野	令和 8 年度		総括
	具体的取組	自己評価結果	
生きてはたらく知			
豊かな心			
健やかな体			
地域連携			
いじめへの対応			
児童支援			
特別支援教育			
人材育成 組織運営			
児童支援			
人材育成 組織運営			
児童支援			
人材育成 組織運営			
ブロック内 評価後の 気付き	今年度は、南中学校が幹事校として、小中連携を図った。6月の中学校の授業参観では、卒業した子どもたちの学んでいる様子や参観し、小学校で何を大事にして、中学校へつなげていくかについて、考えることができた。10月の部活動体験では、6年生の子どもたちが、中学校へのイメージをもつことができた。9年間で育てる意識の大切さを改めて感じることができた。1年間であった。今後は、3校の交流を通して、本校が目ざす子どもの姿をさらに具体化していきたい。		
学校関係者 評価	中期学校経営方針をふまえて、児童と保護者の双方にアンケート(学校評価)をお願いした。その結果を見ると、保護者と児童の評価にずれがある項目があった。そのずれを分析するとよいという助言をいただいた。保護者が学校の取組を理解してもらえるように、情報発信をしたり、参観・懇談したりするなど、知恵をふりしぼってほしい。また、体験を大切にしたい学習や自分たちで活動を創りあげる経験を積み重ねて、学びを進められるとよいという助言もいただいた。		
中期取組 目標 振り返り	今年度は、令和4年度から令和6年度の取組をふまえて、さらによりよい学校づくりを目指すために、具体的取組を改めた。南中学校ブロック「9年間で育てる子ども像」である「自主性」「自己肯定感」「コミュニケーション力」の中でも、特に「自主性」に焦点をあてて、子ども主体の取組を進めることを、具体的取組に位置づけた。今後の課題は、「自主性」について、教職員全員が共通認識をもち、より組織的・計画的に取り組んでいくことだと考えている。		

重点取組分野	令和 9 年度		総括
	具体的取組	自己評価結果	
生きてはたらく知	c1		
豊かな心	c2		
健やかな体	c3		
地域連携	c4		
いじめへの対応	c5		
#REF!	c6		
児童支援	c7		
特別支援教育	c8		
児童支援	c9		
人材育成 組織運営	c10		
ブロック内 評価後の 気付き	今年度は、南中学校が幹事校として、小中連携を図った。6月の中学校の授業参観では、卒業した子どもたちの学んでいる様子や参観し、小学校で何を大事にして、中学校へつなげていくかについて、考えることができた。10月の部活動体験では、6年生の子どもたちが、中学校へのイメージをもつことができた。9年間で育てる意識の大切さを改めて感じることができた。1年間であった。今後は、3校の交流を通して、本校が目ざす子どもの姿をさらに具体化していきたい。		
学校関係者 評価	中期学校経営方針をふまえて、児童と保護者の双方にアンケート(学校評価)をお願いした。その結果を見ると、保護者と児童の評価にずれがある項目があった。そのずれを分析するとよいという助言をいただいた。保護者が学校の取組を理解してもらえるように、情報発信をしたり、参観・懇談したりするなど、知恵をふりしぼってほしい。また、体験を大切にしたい学習や自分たちで活動を創りあげる経験を積み重ねて、学びを進められるとよいという助言もいただいた。		
中期取組 目標 振り返り	今年度は、令和4年度から令和6年度の取組をふまえて、さらによりよい学校づくりを目指すために、具体的取組を改めた。南中学校ブロック「9年間で育てる子ども像」である「自主性」「自己肯定感」「コミュニケーション力」の中でも、特に「自主性」に焦点をあてて、子ども主体の取組を進めることを、具体的取組に位置づけた。今後の課題は、「自主性」について、教職員全員が共通認識をもち、より組織的・計画的に取り組んでいくことだと考えている。		